

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500149		
法人名	株式会社 鎌田電設		
事業所名	グループホーム さざなみ		
所在地	熊本県天草市赤崎1974番地		
自己評価作成日	平成29年1月21日	評価結果市町村受理日	平成29年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成29年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有明町の中心に位置し、近隣には銀行・農協・郵便局・消防署があり、地域と密着した場所に施設はあります。地域の方とのふれあいの機会も多く、野菜や漬物を頂いたり、時にはペットを連れて来られ動物とのふれあいもあります。
庭先にある野菜畑では、誰もが安心して食べられる様に、全て無農薬での栽培。季節の野菜を収穫し、食卓へ並び、季節感を楽しませております。又、天草でとれた新鮮な海の幸も堪能されます。入居者が普段とかわらない生活をし、安心して暮らせる環境作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から地域との繋がりを大切にしている。地域の一員という立場で、住民歓迎のバーキューや敬老会を開き、防災訓練も地域の組織と共同で行い、町内の津波訓練にも参加している。食に関する支援も充実している。ホーム菜園の安心安全な野菜や天草の新鮮な魚を用いる他、誕生日の手作りケーキや週に3回の刺身の提供もある。慣れ親しんだ天草ならではの料理は利用者の心を潤してくれる。テーブルの上には愛読している新聞や季節の花があり、利用者はソファーに掛けて好きなテレビを視聴する、団子汁の美味しい作り方を職員に伝授する、干し柿作りに精を出す等、自宅にいた時と変わらない日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目に付く所に掲示してある。職員は意識して、日々のケアを行うにあたり、理念に沿ったケアにより近づけるよう努力している。	理念には開設者の家庭的なホームを目指すという思いが込められている。理念を玄関の目につきやすい所に掲示し、職員への意識付けを図っている。理念について職員会議で振り返ることで、利用者がゆったりと自由に過ごすための支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行事がある際は、地域住民の方にご案内し、交流を深めている。	ホームや利用者への理解を深めてもらうために、毎年バーベキュー大会や敬老会等に地域住民の参加を呼び掛け、交流を深めている。地域の秋祭り等に出かけて友人・知人と再会することもあり、利用者にとって交流を広げる良い機会となっている。隣人から野菜や漬物の差し入れがある等、自然な交流も見られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解が乏しいと思う。今後、行事や交流会で認知症について伝えていこうと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。入居者様の日常の状況等を報告。会議で出席された役員の方よりご意見を頂いている。	運営推進会議は、家族代表・老人会・区長代表・民生委員・行政職員を委員として2カ月に1回開催している。利用者の状況や活動、事故・苦情報告を行い意見交換を行っている。災害時の避難に協力するために車椅子の操作方法を学びたいとの申し出や、行事にボランティアで協力したい旨の意見が委員から出されていたが、経過の確認は出来なかった。	意見を言い易くする工夫や意見に対する取り組みの経過報告をすることで更に有意義な会議になると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では包括支援センターに参加いただき、直接意見交換をしている。	包括支援センター職員は、運営推進会議に参加することでホームへの理解を深めている。職員が社協主催の「福祉ネットワーク会議」に参加し、地域の一人暮らし高齢者をどのように支援するか話し合っている。また、市の福祉避難所の指定を受けており、市とはより良い協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、職員で見守りをして定期的に解除している。	職員は入職時に施設長から身体拘束の禁止について説明を受け、スピーチロックも含めて身体拘束をしてはならないと理解している。利用者に帰宅願望がある際は、話に耳を傾け気分転換を図る、電話で家族の声を聞かせ、時には面会を依頼する等、協力を得ながら拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送りや会議等で利用者様のケア内容を振り返る時間を設け、実践へつなげるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で勉強会にて学。少しでも知識をつけるよう、繰り返し何度も再確認してより深く理解していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は施設長、管理者で説明を行っている。疑問・不安な点がないか、ゆっくり確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時、直接お話ししたり、電話でお話しする機会を作っている。また、スタッフも家族様が来訪時には近況報告等を行っている。	家族との面会時に日常の様子を伝えたり、毎月、広報さざなみを送付して近況を知らせる事で、家族の安心に繋げている。ほとんどの家族が参加するバーベキュー大会・敬老会等で、家族が話し易い雰囲気になるよう職員は努めているものの、現段階では意見・要望は少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に意見を聞き気付きやアイデア等があった場合は会議や申し送りで意見を出し合い取り入れる様心がけている。	管理者は日常的に個々の職員の意見や要望を汲み取るよう努めている。出された意見要望を会議や申し送り時に職員で話し合い、共通認識の下、統一したケアを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	避難訓練や敬老会等の行事に開設者もホームへ来て、積極的に参加されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で一人ひとりのケアについて勉強会を行ったり、研修内容の回覧により、希望があれば参加できるように調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	希望に応じて、職員には、積極的に研修等への参加を呼びかけている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人様やご家族様と面会し、不安なことや要望等を聴いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様で入居前に面会し、要望や不安等をお聴きしている。入居後もご家族様との情報交換をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の要望を伺い、納得されるサービスを行っていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を家族として関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の来訪時、又は電話等で日頃の生活状況をお伝えしている。ドライブで懐かしい場所を通りがかると、昔を思い出された様子があり、表情が穏やかでした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節を感じていただく為、ドライブ時に花見に行き弁当を食べたり、その時、花を見て触って香りをかがれた時、昔のことを感じられたと思います。面会時に、懐かしい人に会われ「うわー思いがけなかったよ、ありがとう」と喜ばれていた。	利用者同士同じ地域の出身者もあり、馴染みの関係にある。地域の祭りや社協のデイサービスに出かけて友人・知人と再会する利用者もいる。	馴染みの人や場所を積極的に把握することで、更に満足した支援に繋がると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作りの際、声かけし、米とぎ・野菜を切る・茶碗洗い等、それぞれ役割があらわれる。男性のご利用者様は歩行器にて訓練後、リハビリをされたい方へ譲られる。一人ひとりが孤立されないよう気配りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様が入院中や、退所された後も、お見舞いに行き、関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室に過ごされる方や、フロアでゆっくり過ごされる方、テレビ視聴されながら話を聴き、本人様の希望を把握している。	利用者の意向や思いを深く汲み取るべく、会話の際は寛げる環境を整えた上で隣に寄り添って話に耳を傾けている。独居で自宅が心配な利用者は職員と自宅を見に出かけたことで安心した表情になり、犬好きな人は職員が連れてきた飼い犬と触れ合うことで笑顔を見せた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様、主治医よりお話を伺っている。 今までの生活を継続出来る様に支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常のバイタルチェック、受診時の情報交換、その日の出来事を申し送り等でスタッフに伝える。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様や、ご家族様、主治医、スタッフとの話し合いで、その方のケア内容について計画を作成している。	介護支援専門員が、日常の観察や会話から利用者に関して情報を収集し、職員で課題を検討し、利用者一人ひとりが安心・安全で穏やかな生活が送れるようなプランを作成している。プランは定期的な見直し以外にも、状態に変化が見られた際はサービス担当者会議を開催し、かかりつけ医の意見も反映して現状に則したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人様中心のケア計画に努めている。状態変化時には、計画変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の思いを尊重し、良い関係作りをしていく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にお店、銀行、郵便局があり、地域の中心であり、にぎやかな場所である。地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が昔から信頼している病院をお願いしている。緊急時はスタッフ同行。ご本人様の状況等を電話や、直接訪問して報告している。	利用者・家族の意見を尊重し、全員が入所前から継続したかかりつけ医となっている。受診時は家族の同行が基本であるが、緊急時や家族が同行できない際は職員が同行する等、柔軟に対応している。夜間・休診日もかかりつけ医に電話連絡が可能であり、適切な医療を受けられる支援体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談したり、かかりつけ医への相談を行っている。日々の状態の変化を電話や、直接訪問して状況報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際、ご家族様、医師との話し合い、情報交換を行っている。又、早期に退院できられる様、面会へ行ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化される前に医師に相談している。緊急時に備えて紹介状の依頼もしている。	看取りは行わない方針である事を、利用者・家族に契約時に説明している。食事が摂れなくなった等状態が低下した際は、かかりつけ医・家族と相談の上で入院となる。施設長は、将来的には看取りが必要になると認識している。職員教育等の具体的な取り組みは今後の課題と思われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各入居者様のかかりつけ医へ対応している。最低限の応急処置は、皆、学習出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練。その中で1回は地域自主防災組織と共同で付近の消火栓よりホースを延長し、放水訓練を行った。3月には町内一斉で津波訓練に参加。サイレンと共に高台へ避難。	毎年、地域自主防災組織の協力を得て火災の際の放水訓練を実施している。ホームは地震災害を最も懸念しており、町内の津波訓練の際には利用者5名が参加した。新人職員には入職時に通報の手順を確認させ、冷静に対応できるよう指導している。	昼間を想定した利用者も参加する総合訓練は行われているが、夜間想定訓練も必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室でポータブルトイレを使用される方やトイレでの排泄をされる方へは誘導介助後、その場をいったん離れたり、タオルをかけるなどしてプライバシーに配慮している。	施設長は入職時に、新人職員へ個人情報の保護やプライバシー保護等について説明している。職員は、入浴や排泄介助の際のプライバシー確保に特に配慮している。言葉使いは利用者が理解し易いように、一人ひとりに合わせて方言も交えた温かみのある言葉使いを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけにより、本人様の希望など支援している。パチンコ・外食・町内に温泉センターがある為、希望者がいらっしやったら、出掛ける様に支援したい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問理容。行きつけの美容院へも出かけられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり味付けが、薄味の方や濃い味の方がいらっしやいます。通院の帰り道に自動販売機にて缶コーヒーを購入して飲まれる。2週間に一度訪問販売でパン屋が来て要望がえられる方は購入される。	敷地内にある畑の旬の野菜を活用した食事を、職員が毎日交代で提供している。職員は同じテーブルで同様の食事を摂りながら見守っており、利用者が一般家庭同様にお代わりする姿が見られた。また、ひな祭り等の行事食や団子汁等の郷土料理、誕生日の手作りケーキの他、週3日は刺身を提供したり、時にはラーメンの外食に出かけるなど、食事を楽しむ多様な支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない方は、ご本人様が好まれる飲み物を用意する。炭酸飲料・ココア・スポーツドリンク。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で出来られない方は、誘導し、スタッフと一緒にいる。週に一度訪問歯科。家族様の希望者のみ。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに応じて誘導している。夜間帯トイレへ行かれる際、失敗される方へはセンサーマットを設置し誘導助している。転倒予防にも繋がる。ご家族様やご本人様の要望にて居室にポータブルトイレの設置もしている。	昼夜共にポータブルトイレを使用する利用者もいるが、ほとんどがトイレ使用、又はポータブルトイレとの併用である。パット等も個々の利用者にあったものを使用して、排泄の自立に努めている。夜間はセンサーマットを使用することで排泄を察知し、トイレへと声かけ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、通じをよくする為に間食時にヨーグルトの中にバナナを入れて勧めたり、苦手な方はミキサーで潰してジュースにしたりしている。なるべく薬に頼らず、予防に取り組んでいる。医師にもご指導頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否があられる方には時間を置いて何度も声かけを行っているが、男性拒否の方は、女性職員にお願いしている。	日曜日以外であれば毎日の入浴も可能。毎日・一日置き・熱い風呂・一番風呂と利用者の希望に沿った支援が行われている。大きめの檜風呂でゆったりと一人ずつ、あるいは気の合った者同士2人仲よく入る等、利用者は各々入浴を楽しんでいる。風呂の縁に高さ合わせた檜の椅子に腰かけることで、安定的な姿勢で安心して浴槽に入る事が可能であり、利用者にとって寛げる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後は居室で休まれる方、ソファーに腰かけられテレビ視聴中に居眠りされる方いらっしゃいます。介助が必要な方は、食事後30分経過して居室誘導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬拒否の方は錠剤を潰して食事中にご飯やおかずと一緒に摂取を促している。定期受診の際、主治医へ報告すると、錠剤から粉に変更。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物の要望があられる方は近所へスタッフと出かけられたり、女性の方は洗濯物たため・食事を調理する際、一緒に畑へ行って野菜収穫、皮むき。スタッフの味付けを味見される。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	パチンコをされる方がいらっしゃいます。その方は家族様と定期受診後、パチンコ店へ寄られ楽しまれて来られる。景品でお茶菓子を購入して来られたりされる。	職員が車椅子を押しておやつを買いに出かけたり、受診の帰りに家族と買い物をして帰る等、個別の対応が見られた。秋祭りに出かけたり、自宅を見にドライブする等の支援も行われている。また、敷地内の広場での花見や、畑での野菜の収穫などで気分転換を図っているものの、遠出の外出の機会は減少傾向にある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持可能な方は自ら持参されている。妄想があられる方はご家族様より依頼があり、事務所で保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が子供様へ電話の要望があられる方、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓や洗面所には、季節の花を飾ったり、入浴時には菖蒲湯やゆず湯を楽しまれる。季節に応じた展示物、その時々利用者様の写真展示等をして目で楽しめるように工夫している。	リビング・ダイニング・キッチンと一続きの広い空間は天井が高く開放感がある。利用者はテレビの前のソファーに座り、歌謡番組や時代劇等、好きな番組を楽しんでいる一段高い畳のコーナーに炬燵があり、ゆっくり寛ぐ事も出来る。随所に季節の花が飾られ、テーブルには読みなれた新聞が置かれる等、家庭的な雰囲気が感じられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で入浴される方や気の合った利用者様同士で入浴される。その時「お風呂が一番よかね」と話される。 食事時になると、食卓へ来られスタッフと一緒にご飯作りをされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が今まで使っていた物を持参されている。自宅で愛用されていた物をお持ちいただくように伝えしている。	姫鏡台や整理ダンス、椅子等、馴染みの物が持ち込まれている。家族や行事の写真が飾ってある部屋、猫の雑貨があふれている部屋、窓辺に花や観葉植物が置かれた部屋等、各々自分らしさに満ちた落ち着いた部屋となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に植物の札をさげている。同じ扉がある為、わかりやすい様に折り紙で目印等したりしている。		